

沢野中央小学校通信

太田市立沢野中央小学校

学校だより

第11号 令和元年12月23日



冬休み 人との交わりで学ばせたい

冬休みは、親戚との会合や地域行事もあり、人と接することが多く社会性の第一歩で、あいさつの質を上げられる時期でもあります。お子さんのあいさつの質を高めるためにちょっと工夫してみませんか。

一般家庭では、少子化と祖父母との別居が多くなりました。屋根を同じくする家族内だと、あいさつは、なかなか行えません。簡略化され、ちょっとした仕草や発言があいさつ代わりになっています。家族内だとなかなかできないあいさつも、年末年始は、いろいろな人と接する機会も多いので、1年で一番有効な機会です。ぜひこれを活かして、意図的に子どもに声がけしてください。

質を高めるあいさつは、「おはようございます」「こんにちは」だけでなく、一言付け加えられるといいです。大人なら「こんにちは。先日は・・・でお世話になりました。」と言葉にするでしょう。子どもなら「こんにちは。寒いね。」など、また親戚などが集

まって子どもが先に食事をするときなど、「お先にいただきます。」「ごちそうさま。おいしかったで



す。」などと一言付け加えられるといいです。自分が他者より先んじるときやお世話になったことなど、自分以外の第三者の存在を認識すると、質の高いあいさつになります。

ネット社会が進み、子ども部屋でゲーム等をするなど遊びもパーソナル化が進んでいます。こんな社会の中で、どれだけ人と人との交わりの大切さを伝えていくかが、成長の要です。冬休みは、人との交わりの多い時期です。ちょっとした声がけで、子ども達は学ぶことができます。チャレンジしてみてください。

人権講演会 2020 パラリンピック内定の唐澤剣也さん

12月5日。唐澤剣也さんをお招きして人権講演会を行いました。唐澤さん(25)は、渋川市出身で中学時代に全盲となり盲学校に通いました。そこで、陸上競技と出会い、得意な陸上競技を伸ばしてきました。昨年8月のアジア・パラ大会の陸上5000mで金メダル、11月のドーハで行われた国際大会は5000mで銅メダルを獲得し、2020東京パラリンピックの出場権を得ました。

唐澤さんは、白杖(はくじょう)や点字ブロックについて説明した後、子供達と一緒に走りました。

国際大会の様子のスライドや児童の代表



がガイドランナーとなって走りました。また、金や銅のメダルも見せていただき、目が見えない人でも分かるようにメダルを振ると音が出ました。みんな驚いていました。

「目標をもって毎日コツコツと努力することが、金メダルにつながった」と話してくれました。